

近畿地区では3工場にLEAB装置を設置しており、今期中に3工場に追加設置する予定。LEAB装置は既に同社の全国の合材工場の半数以上に設置済だが、今後、全工場への設置を目指す。

また、製造燃料を重油からCO<sub>2</sub>排出原単位の少ない都市ガスなどへの順次変更や、稼働電力もすべてを再生可能エネルギー率100%電力にすることで、アスファルト混合物製造に伴うCO<sub>2</sub>排出量を50%削減可能とする低炭素合材の販売も開始している。これにLEAB装置を併用することで、より一層CO<sub>2</sub>排出量削減が可能となる。

をさらに推進し、公共工事の低炭素化に貢献する。

同社は、CO<sub>2</sub>排出削減目標を2030年度に13年度比50%削減、50年度にはカーボンニュートラルを目指す中で、先取りした取り組みを行っている。

合材工場では、アスファルト混合物製造時に少量の水の添加により、製造温度を最大30度低減できるLEAB装置を利用し、CO<sub>2</sub>排出量を削減している。11年から合材工場への設置・運用を開始し、22年3月までに全国の44工場に設置。これまで国道、地方自治体道路や高速道路、空港、民間駐車場など、さまざまな舗装に出荷している。

東京都向けには出荷する9カ所の合材工場のすべてにLEAB装置を設置し、東京都が発表した「低炭素アスファルト」使用の先行導入に対応できる体制を整備している。

## 低炭素合材 製造・販売促進

### 全工場にLEAB装置

前田道路

前田道路は、合材工場へのフォームドアスファルト装置

(LEAB装置)の設置や、製造燃料を重油からCO<sub>2</sub>排出原単位の少ない都市ガス、バイオマス由来のバイオ重油への順次変更などを進めており、低炭素合材の製造・販売

